

キャンパスおたわら学習講座《公募型市民企画講座》

小田原文化史講座 第3回

～小田原における 山上宗二と茶の湯文化～

戦国時代の歴史では城と武将に注目が集まります。小田原の歴史でも、やはり小田原城と北条五代への関心が高いと言えます。一方で、北条時代から小田原には豊かな文化が花開いていたことは、あまり知られていません。

今回は、北条氏滅亡のとき、小田原に寄寓していた茶人・山上宗二を取り上げ、小田原の「茶の湯」の歴史を紐解いてみましょう。本講座では、小田原史を文化の観点から探っていきます。講座の概要は、裏面をご覧ください。



一夜城二の丸跡



早雲寺惣門



山上宗二追善碑

- ◆ 講師：深野 彰氏（エッセイスト）
- ◆ 日時：9月23日(土) 13:30～15:30（受付 13:00より）
- ◆ 会場：小田原市生涯学習センターけやき 大会議室
- ◆ 定員：50名（申込順）
- ◆ 費用：1,000円
- ◆ 申込み：

・申込先・問合先 NPO法人小田原市生涯学習推進員の会
・申込方法 電話受付:0465-33-1890
直接申込み:生涯学習相談窓口(けやき2階)
ホームページから <http://www.campusodawara.jp/kouza/>

■ 共催：小田原史談会
NPO法人小田原市生涯学習推進員の会

茶人・山上宗二にみる小田原の茶の湯の世界



山上宗二追善碑裏面

茶人・「山上宗二」は、堺の豪商に生まれました。干利休の高弟であった宗二は、豊臣秀吉の茶頭を務めました。しかし、直言を憚らない性格により秀吉の勘気に触れて関西に居られなくなり、東国へ旅立ちます。宗二は東国の入口で北条家に篤く迎えられて、小田原に留まります。小田原での宗二は、北条家の家臣たちへ「山上宗二記」を伝授します。しかし、豊臣秀吉の小田原攻めの際に干利休の取りなしで秀吉に面会しますが、またもや勘気に触れて殺されてしまいました。宗二の記した「山上宗二記」は、室町時代から戦国時代の茶の湯の変遷が記され、当時の茶の湯の世界が分る貴重な記録です。現在でも、茶の湯を楽しむ人々の必読書の一つとなっています。山上宗二が小田原でめざした茶の湯とはどのようなものだったのか、山上宗二の人物像を探ってみましょう。

講師紹介(深野 彰氏)



1974年に早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了(生産工学専修)。生産システム設計、中国・蘇州駐在等の会社勤務後、現在エッセイスト。中国の文化史、小田原の文化史などをテーマに執筆。著書「蘇州通信」(2010年、中国・蘇州文化に関するエッセイ)、「ういろうにみる小田原」(2016年、「ういろう」の歴史を縦糸にして、小田原史の文化人を横糸にして小田原の文化史を織り込んだ)。小田原市社会教育委員、小田原市文化事業推進委員会監事。1949年生まれ。

会場アクセス

小田原市生涯学習センター けやき



〒250-8555 小田原市荻窪 300 番地

電話 0465-35-5300

○徒歩 JR小田原駅西口から約15分

○バス ①②とも、市役所前下車 徒歩約1分

①JR小田原駅東口2番のりば(所要時間約8分)

②JR小田原駅西口2番のりば 久野車庫・菟河原循環方面(所要時間約4分)

※駐車台数に限りがございますので、

ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。